



平成 22 年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設長 若槻壮市

物質構造科学研究所放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて 1～2 日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間 6 件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますので応募下さいませようお願いします。

応募資料は電子ファイル（ワード、テキスト又は PDF 等）をメールに添付してお送り下さい。

記

1. 開催期間 平成 22 年 4 月～平成 22 年 9 月
2. 応募締切日 平成 21 年 12 月 18 日（金）
〔年 2 回（前期と後期）募集しています〕
3. 応募書類記載事項（A4 判、様式任意。）
 - (1) 研究会題名（英訳を添える）
 - (2) 提案内容（400 字程度の説明）
 - (3) 提案代表者氏名、所属及び職名（所内、所外を問わない）
 - (4) 世話人氏名（所内の者に限る）
 - (5) 開催を希望する時期
 - (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名
4. 応募書類送付先（データをメールに添付して送付）
放射光科学研究施設 主幹秘書室 森 史子
Email: pf-sec@pfiqst.kek.jp
TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費、日当については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します（1 件当たり上限 50 万円程度）。

また、研究会の報告書を KEK Proceedings として出版していただきます。

平成 22 年度前期 共同利用実験課題公募について

実験企画調整担当 小林 克己
宇佐美徳子

上記公募締切が下記のようになっております。

S2 型, G 型, P 型課題 平成 21 年 11 月 6 日（金）

前々回の募集より応募方法が変更になり、Web での申請となりました。申請用の Web ページ (<https://pmsweb.kek.jp/k-pas>) よりご応募下さい。

〆切時間は Web システムで設定されており、少しでも〆切をすぎますと受け付けられなくなりますので十分ご注意ください。余裕を持って申請されるようお願いいたします。

外国からの申請でコンタクトパーソンが記載されていた場合は、事務方からコンタクトパーソンに連絡を取り、承諾の確認を行います。P 型（予備実験・初心者実験）の申請に当たっては、事前に十分な時間的余裕をみた上で、実験ステーション担当者と技術的なことについて緊密に打ち合わせて下さい。

3 年前から、報告論文数が少なく、かつそれに関する問い合わせに何の応答も無いと言う場合には「条件付き採択」、また、この調査に何の返答もない場合や回答内容によっては最大 0.5 点が減点出来ることになっています。これが原因で不採択にならないよう、課題を申請される方は、論文出版時には登録を忘れずに、かつ速やかにお願いします。

不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

研究協力課共同利用係

Tel: 029-864-5126 Fax: 029-879-6137

Email: kyodo1@mail.kek.jp

実験企画調整担当者 小林克己

Email: katsumi.kobayashi@kek.jp

KEK 一般公開のお知らせ

一般公開実行委員

放射光科学第一研究系 小野寛太

放射光科学第二研究系 張 小威

加速器第 7 研究系 梅森健成

今年の KEK 一般公開は、『宇宙・物質・生命～加速器とノーベル賞～』というテーマで 9 月 6 日（日）に開催されます。機構内の多くの施設が公開される予定であり、PF では、PF コントロール室、リング内、PF 実験ホールの一部、PF-AR NW 実験ホールを公開する予定です。また、物構研展示コーナーでは、中性子、ミュオンを使用した J-PARC での研究内容の展示が行われます。

KEK 特別名誉教授の小林誠先生の講演「CP 対称性の破れとは」が開催される他、KEK 内のそれぞれの場所でそれぞれの担当者が工夫をこらして、加速器、実験機器、研究成果の展示や科学おもちゃの展示、実演などを行う予定です。小さいお子さんからお年寄りの方まで楽しめるような企画が盛りだくさんですので、放射光ユーザーの皆様も、普段とは異なる KEK を楽しんでいただけたらと思います。

ご家族、ご友人お誘い合わせのうえ、KEK 一般公開にお越しいただきますよう職員一同心よりお待ち申し上げます。つくばセンター（つくばエクスプレス「つくば駅」下車すぐ）と KEK の間は当日無料送迎バスが運行されます。また、機構内の移動には無料巡回バスが運行されます。

KEK 一般公開に関する詳細は、<http://www.kek.jp/openhouse/> をご参照ください。

1. 日時：2009 年 9 月 6 日（日）9:00～16:30

2. 公開施設等：KEKB B ファクトリー加速器、B ファクトリー筑波実験棟・展示室、電子陽電子入射器棟、フォトンファクトリーリング・実験ホール・PF-AR 北西棟、先端加速器試験棟、超伝導リニアック試験施設棟、先端計測実験棟、陽子シンクロトロン、計算科学センター、超伝導低温工学センター、機械工学センター、放射線科学センター、常設展示ホール「KEK コミュニケーションプラザ」、3 号館展望台（公開施設は変更になる場合があります。）

3. 展示等：理論コーナー、国際共同実験（ATLAS 実験、BESS 実験）、ERL 計画、冷中性子、史料室展示、短寿命核による科学研究、大強度陽子加速器（J-PARC）、T2K ニュートリノ振動実験、ハドロン実験、物構研（放射光科学研究、ミュオン科学研究、中性子科学研究）、古本市、総研大コーナー、知的財産、リニアコライダー

4. 講演：14:00-15:30「CP 対称性の破れとは」

小林 誠（KEK 特別名誉教授）

* 講演は事前申込制です。

5. その他の主な企画：

- おもしろ物理教室「虹のタペストリー」
- ラジオを作ってみよう！
- 科学おもちゃであそぼう！
- 声はどれだけ遠くまで届くか
- 紙飛行機を作って滞空時間に挑戦しよう！
- 霧箱教室

KEK における新型インフルエンザ対策

KEK 産業医 大井 雄一

新型インフルエンザは、2009 年 4 月のメキシコでの大流行を経て、現在も世界中で蔓延しています。6 月 12 日には、WHO（世界保健機関）が、パンデミック（世界的大流行）を宣言しました。

そもそも新型インフルエンザって何なんだ、と思われる方も多いかもしれません。新型インフルエンザとは、これまで毎年流行してきたウイルスとは抗原性が全く異なるウイルスが、ヒトとヒトとの間での感染力をもったものです。ほとんどの人がウイルスに対する免疫をもっていないため、世界的な大流行と社会機能の停滞を引き起こします。

実は、新型インフルエンザの出現は今回が最初ではありません。1918 年（大正 7 年）のスペインかぜ（スペインインフルエンザ）、1957 年（昭和 32 年）のアジアかぜ（アジアインフルエンザ）、1968（昭和 43 年）の香港かぜ（香港インフルエンザ）と、我々は 20 世紀中で 3 回も新型インフルエンザのパンデミックを経験しています。特に 1918 年のスペインかぜは、全世界で 4,000 万人以上、日本では約 39 万人もの死者を出すなど大きな被害をもたらし、感染症だけでなく自然災害や戦争などといった人類に対する脅威すべてを含めた中でも、短期間でもっとも多くの人類を死に至らしめたものであるとも言われています。

これまで 30 年～40 年に 1 度はパンデミックが起きていたという経過を踏まえ、世界の専門家の間では、じき必ず次のパンデミックが起きるであろうといわれていました。日本においては 2005 年 11 月にはすでに新型インフルエンザ対策行動計画が策定・公表されています。現在ではすでにパンデミックが起きてしまっていますが、それまで、発生事態の想定やとるべき対策など、国、自治体、公共機関、各事業場などそれぞれのレベルで対策と議論を行っている最中に、新型インフルエンザの第 1 報が飛び込んできたのです。

インフルエンザウイルスに限らず、ウイルスや細菌といった病原体は、ものすごい速さで進化し続けています。今回の新型インフルエンザの第 1 報は「ブタインフルエンザ」という形でなされたのを皆さんも覚えていらっしゃると思いますが、それまで新型インフルエンザとして進化し大流行を引き起こすと思われていたのは、ブタインフルエンザではなく、特に H5N1 という抗原性をもったトリインフルエンザでした。H5N1 トリインフルエンザの中には症状が非常に重く致死的な「高病原性」とよばれる株があること、また 20 世紀末からアジアを中心にトリからヒトへの感染が確認され死者も出ていたということが、新型インフルエンザ候補として警戒された理由です。しかしながら、いざふたを開けてみると、新型インフルエンザとして報道されたのは、H1N1 という抗原性をもったブタ由来のインフルエンザでした。

今回の新型インフルエンザの症状はこれまで毎年冬に流

行っていたインフルエンザと大きな差はなく、基礎疾患(慢性疾患)や妊娠といった危険因子がなければ、特に重症化することなく軽快すると言われていました。このような知見は発生後に得られたものであり、当たり前のことながら発生前の段階では誰も予測しえなかったものでした。症状だけでなく、感染拡大の規模やスピード、インフルエンザ流行による社会機能への影響の大きさなどを正確に予測することが困難であることは、発生前から指摘されていました。WHOにおいても日本においても新型インフルエンザとしてはH5N1をはじめとした重症のものを想定し対策を講じていたため、結果としては、疾病の重症度と、対策の厳重さとの間で乖離が生じることとなりました。

新型インフルエンザの発生を受け、KEKにおいても機構長を長とした新型感染症対策本部が設置され、連日の議論を経て様々な対策を講じました。健康被害を最小限に抑え、機構が果たすべき共同利用・教育・研究・社会貢献への影響を可能な限り少なくすることを対策の基本理念とし、マスク等の个人防护具の確保、手指消毒薬の確保と設置、流行状況や予防方法の周知、流行地からの帰国者(入国者)への一定の制限やマスク着用および体温測定の推奨、発熱者への入構制限等を行いました。国および自治体からの情報発信は大局的な見地からのものに留まっており、各々に食い違いや混乱もあったため、実際の対策においてはそれらの情報に基づき、KEK独自の状況を勘案しながら機構としての意思決定を行っていく必要がありました。

執筆時現在(7月)でも新型インフルエンザの感染者数は日々増え続けており、茨城県内でも複数の学校で学級閉鎖が行われていると聞きます。高温多湿の日本の夏でさえこのような状況ですから、冬本番になった時はいよいよ大流行することが予測されます。しかしながらメディアでの扱いは日々小さくなり、現在ではあまり大きく報道されなくなっていました。本当に怖いのは病気そのものより、国民全体が関心を失い、危機意識を忘れてしまうことのような気がします。

この記事を読んでいる皆さんの中には今回の新型インフルエンザ対策のために実験等に支障を来たした方もいらっしゃるかと思います。KEKでは冬に向け事業継続と感染拡大防止の間でよりバランスのとれた対応をすべく行動計画を策定中であり、私も産業医の立場からより柔軟性のある対応ができるよう可能な限りの助言を行っていく心づもりでおりますので、どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。最新のインフルエンザに対する機構の対応については、ホームページ(<http://www.kek.jp/intra-j/announce/2009/flu/index.html>)をご覧ください。

最後になりましたが、引き続きのうがい、手洗い、咳エチケットの励行など、皆様個人での感染防止と体調管理を怠りませんよう重ね重ね念を押させていただきます。筆を擱くことにいたします。

PF への宅配便の送付についてのお願い

PF 事務室

PF での実験に使う物品等を宅配便を利用して PF に送ることがあると思いますが、それに関する注意とお願いです。

放射光施設気付けで届いた宅配便は放射光施設の事務室で受け取りサインをして受け取ります。ユーザー宛の荷物は受け取り時に実験ホールに放送を入れて、ユーザーに引き取るようにお願いしています。その際に引き取らなかった場合には研究棟2階ロビーのコピー機の横のスペースに置いておきます。後で取りに来られるときは、ご自分で荷物を確認して引き取っていただいています。先日、他のユーザー宛の荷物を間違えて持って行くことが起きました。このような場合、他のユーザーに大きな迷惑がかかりますので引き取りの際は十分ご注意ください。事務室では受け取った荷物の保管管理をしておりませんのでこの点もご了解下さい。ご自身で確実に荷物を受け取りたい場合には、配達日時を指定し、その時間帯に放射光施設にいるようにして下さい。

PF-AR で利用する物品も放射光施設気付けで送りますと PF 研究棟事務室に届きます。AR で受け取りたい場合には放射光施設 AR (BL 名も入れて下さい) 気付けとしてお送り下さい。その場合、荷物は AR の南コンテナに届けられます。この場合も到着した荷物の管理はしておりませんのでご注意ください。

Note PC 等の持込時に関する注意

情報セキュリティマネージャー 濁川和幸 (KEK・PF)

KEK ではアンチウイルスソフトがインストールされていない計算機をネットワークに接続することは出来ません。実験等で Note PC などを持ち込む場合には必ずアンチウイルスソフトをインストールして、ウイルス定義ファイルも最新版にしてください。また、OS 等も常に最新のアップデートを適用して脆弱性の解決に努めてください。KEK のセキュリティの詳細に関しては下記のホームページを参照してください。

<http://ccwww.kek.jp/ccsupport/security/index.html>

なお、KEK 内では P2P ソフト(ファイル共有ソフト)の使用も禁止されています。実験等で Note PC などを持ち込む場合には必ず P2P ソフトのインストールされていない状態にしてください。

防災・防火訓練のお知らせ

放射光科学系 防火・防災担当 小山 篤
兵藤一行

高エネルギー加速器研究機構では全所的な防災・防火訓練を年1回行っています。

本年度の訓練は、

2009年11月27日(金)午後

に行う予定です。

訓練では、緊急地震速報が発令された場合の対処、地震発生後の機構指定避難場所(PFニュース裏表紙参照)へ

の避難・誘導、避難場所での職員・ユーザーの安否確認などを中心に訓練を行います。訓練は30分程度です。訓練では避難の際、MBSを閉じさせていただきますので、PF、PF-ARとも一時的に実験ができなくなります。

PFでは、多くのユーザーが閉じられた空間で実験を行っており、放射線や化学薬品なども扱っていますので、非常時に迅速な対応が取れるよう、日頃の訓練が極めて重要と考えています。大切な実験時間の一部を使つての訓練となりますが、一人でも多くの方に参加していただけますよう宜しくお願い致します。

人事異動・新人紹介

予 定 一 覧

2009年

9月6日	KEK 一般公開
9月7日	第1回日本放射光学会放射光基礎講習会「先端研究開発ツールとしての放射光利用術」 (東京大学 本郷キャンパス)
9月18日～19日	第4回放射光科学研究施設国際諮問委員会(PF-ISAC)
10月7日	PF-AR 平成21年度第二期ユーザー運転開始
10月14日	PF 平成21年度第二期ユーザー運転開始
10月22日～23日	先端研究施設共用促進事業(産業戦略利用)講習会 XAFS講習会(入門実習編)(PF研究棟2階会議室)
11月6日	平成22年度前期共同利用採択課題公募(S2型, G型, P型)締切
11月17日～18日	物構研シンポジウム'09(エポカルつくば)
11月27日	防災・防火訓練
12月18日	平成22年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切
12月24日	PF, PF-AR 平成21年度第二期ユーザー運転終了

2010年

1月6日～9日	第23回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(イーグレひめじ)
3月9日～10日	第27回PFシンポジウム(エポカルつくば)

*最新情報は <http://pfwww.kek.jp/spice/getschtxt> でご覧下さい。